

# 地域ケア会議に 出席するための心得

## 管理栄養士の役割



地域ケア会議の実際 参加者例

※全ての専門職が出席する必要はないが運動・口腔・栄養などの幅広い観点から助言が得られるよう市町村で参加者を選定する。

2024年11月23日  
在宅医療・介護運営委員会

# 名称はそれぞれ



愛知県

## たとえば

- ・岡崎市：コミュニティケア会議
- ・幸田町：多職種合同ケアカンファレンス
- ・みよし市：自立支援型ささえ愛会議
- ・豊田市：多職種で自立支援を考える会

# 地域ケア会議とは

地域包括支援センターまたは市町村が主催・運営し、多職種で構成される

**\* 地域包括ケアシステムの実現に向けた会議 \***

## 手法

・地域ケア個別会議：**個別事例の課題検討**

・地域ケア推進会議：**地域に必要な取り組みを  
明らかにして施策を立案・提言**

# 介護予防のための 地域ケア個別会議の目的

- 自立支援・介護予防の観点を踏まえて「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、**自立を促すこと**」ひいては「**高齢者のQOLの向上**」を目指す。
- 多職種からの専門的な助言を得ることで、高齢者の**生活行為の課題等を明らかにし**、介護予防に資するケアプラン作成とそのケアプランに則したケア等の提供を行うことを目指す。

# 自立「したい」生活の実現

介護保険サービス      協力      地域資源



ケアプラン

栄養士

歯科  
衛生士



言語  
聴覚士

生活課題

作業  
療法士



理学  
療法士

医師

薬剤師



## 地域ケア会議 5つの機能

個別ケースの検討

1 個別課題解決機能

2 ネットワーク  
構築機能

3 地域課題発見機能

地域課題の検討

4 地域づくり  
資源開発機能

5 政策形成機能

地域課題が明らかになる



個別支援に還元される

実務者レベル

代表者レベル

# 自立(律)支援 ～介護保険の基本理念～

## 自立(律)支援とは

高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、その能力に応じて自立(律)した日常生活を営むことができるように支援する

- ・少し練習すれば自立(律)できる
- ・工夫すれば自立(律)できる



- 本当はできるのにサービスを利用

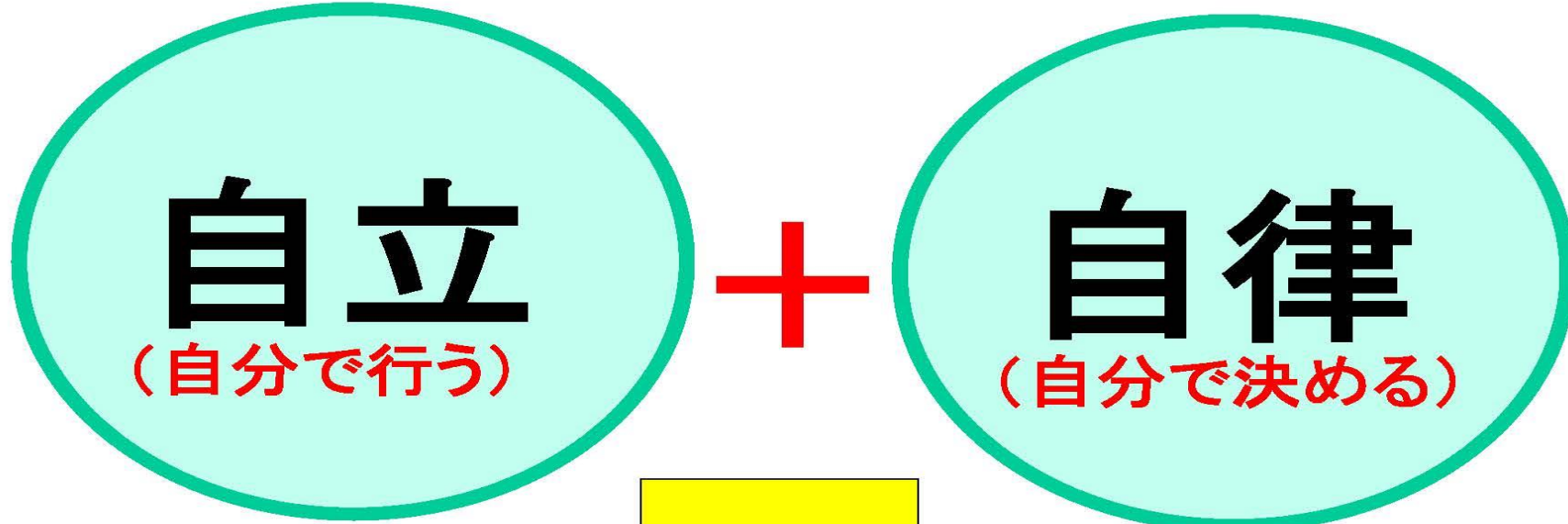
➡ ①解決すべき課題を抽出

➡ ②共有

➡ ③解決に向けた提案 と共に

“あつたらいいな”と思う新たな資源  
や支援等のヒントを得る





**私らしい暮らし(人生)**

# 介護予防のための 地域ケア個別会議開催の意義

- 自治体関係者⇒行政課題の発見・解決策の検討
- 専門職⇒専門職にとってのスキルアップ
- 介護サービス事業者⇒ケアマネジメントやケアの  
質の向上
- 参加者全員⇒ネットワークの構築

**\* 参加者のOJTの場であることを意識する**

# 失敗しない ケア会議にするための10か条

- 1 社会人としての常識(挨拶、服装、時間厳守など)を守る
- 2 多くの情報を端的に読み取る能力を養う
- 3 自分の専門領域以外の専門的知識の習得(運動・口腔・栄養・・・)
- 4 誰が、何時、何処で、何を、何故、どのように(5W1H)を意識した助言
- 5 自立を阻む生活課題を明確にする
- 6 質問や指摘でなく助言を意識する
- 7 謙虚で相手の立場に立った助言を意識する
- 8 市町村の地域課題を把握する
- 9 難しく語らず簡単に説明する
- 10 「活動」から「参加」を意識した助言

\* 佐藤孝臣、作業療法ジャーナル49巻10号「失敗しない地域ケア会議」を一部改編

知っておくと会議で発言し易い

• **社会資源** (市町村により異なる)

• **地域性** (学区ごと)

\* 坂が多いとか店が遠いとか



• **本人の目標 具体的に**

厚生労働省

「介護予防活動普及展開事業  
専門職向け手引き(Ver.1)」

(専門職としての視点、具体的な確認や推察の内容が  
記載されている)

⑦ 管理栄養士・栄養士

管理栄養士・栄養士は、日常生活を営む上で基本となる食事について、適切な栄養摂取といった観点から、助言を行います。

ステップ	専門職としての視点、具体的な確認や推察の内容
事例の理解と確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事摂取状況、排泄状況、服薬状況、病歴の有無、自立意欲、家事能力と意欲、身体状況と機能向上、介護者の状況、生活歴と生活状況、金銭面等について確認する</li> <li>かかりつけ医による栄養上の意見や、病院での栄養指導の内容を確認する</li> <li>栄養に関わるキーマンを確認する</li> <li>食事環境で支障はないかを確認する(孤食による食欲低下、衛生環境、台所の機能性、買物の状況、家族関係、支援者等)</li> <li>閉じこもり傾向や活動低下がみられる場合に食生活の状況を確認する</li> </ul>
課題の明確化と背景要因の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の状況・状況に合わせた食事摂取がおこなわれているかを確認する(病状、服薬状況、食習慣、認識、身体状況、摂食状況等)</li> <li>低体重だけではなく、疾病の重症化予防、過体重や栄養の偏り、不足による活動性低下の予防も検討する</li> <li>栄養面だけでなく、生活全般からみて、活動性の向上につながる項目をみつける</li> </ul>
目標と支援内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養状態が改善することにより、意欲向上につながる可能性を検討する</li> <li>プラン作成担当のプラン目標に合った個別プランが立てられているか、栄養状態の改善につながる目標になっているかを確認する</li> <li>栄養及び食生活の視点から、介護予防や疾病の重症化予防につながるかを確認する</li> <li>本人が実行可能な短期目標を設定しているか確認する</li> <li>他職種が関わるサービスに、食に関する支援の項目がある場合、本人の状態に合わせた内容になっているか確認する</li> <li>本人の意思を踏まえ、負担にならないよう食生活の設定を検討する</li> </ul>
実践につながる助言のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医だけでなく歯科医師や薬剤師等とも連携し、栄養面だけでなく、生活全般を踏まえた視点で助言する</li> <li>食事や体調のコントロールを本人や家族で行うことができるよう助言する</li> <li>目標達成に向けた行動変容を導くためにも、短期間で出来る目標を設定し、達成感を得られる工夫をする</li> <li>本人や家族に、栄養改善の必要性が受け入れられなかった場合、本人や家族が理解できそうなポイントを助言する</li> <li>栄養士の介入がない場合、他職種の介入時に行ってほしい助言を提案する</li> <li>栄養支援に関する地域資源が近隣にない場合、地域課題として検討する</li> </ul>

# 地域ケア個別会議においての



I 管理栄養士の役割

II 管理栄養士が着目すべきポイント

III 管理栄養士の視点からみた生活課題の  
明確化と背景要因の確認

公益社団法人東京都栄養士会長 西村一弘 令和2年3月公開版より

# I 管理栄養士の役割

## (1) 栄養に関する情報の整理

高齢者本人にとって必要な情報を専門的な視点から整理する

## (2) 食事や栄養の困りごとの解決

医師から指示されている治療食の調理方法、摂食・嚥下障害がある場合の食形態の提案・トロミ剤等の利用方法、宅配食の内容の確認など、食生活における様々な困りごとに対する解決策を提案する

## (3) 必要なサービスの助言・提案

医療保険・介護保険制度(介護予防・生活支援サービス等)、また地域資源(カフェ・サロン等)を把握し、高齢者本人にとって必要なサービスを助言・提案する



#### (4) 重症化や低栄養の予防

糖尿病合併症や動脈硬化等を予防するためには、血糖値や血圧をコントロールすることが重要。栄養や食事がもたらす疾病への影響を考慮し、食事内容の調整を行う。また、低栄養を予防するためには、疾患や薬物治療に合わせた食事の調整が必要。補助食品等を検討するなど、高齢者本人の状況に応じ、必要な助言・提案を行う。低栄養の予防と改善は、サルコペニアを予防するためにも重要。



Point!



## Ⅱ 管理栄養士が着目すべきポイント

- (1) 体重変化、身体計測や身体所見からみる栄養状態
- (2) 食事摂取量と栄養素別摂取内容
- (3) 摂食・嚥下機能評価による食事形態の適合性の確認
- (4) 食材の調達が可能か生活環境か、支援者の協力はあるか
- (5) 調理能力



# Ⅲ 管理栄養士の視点からみた生活課題の 明確化と背景要因の確認

その他の具体的確認事項

病 状

服薬状況

経済状況

人生観

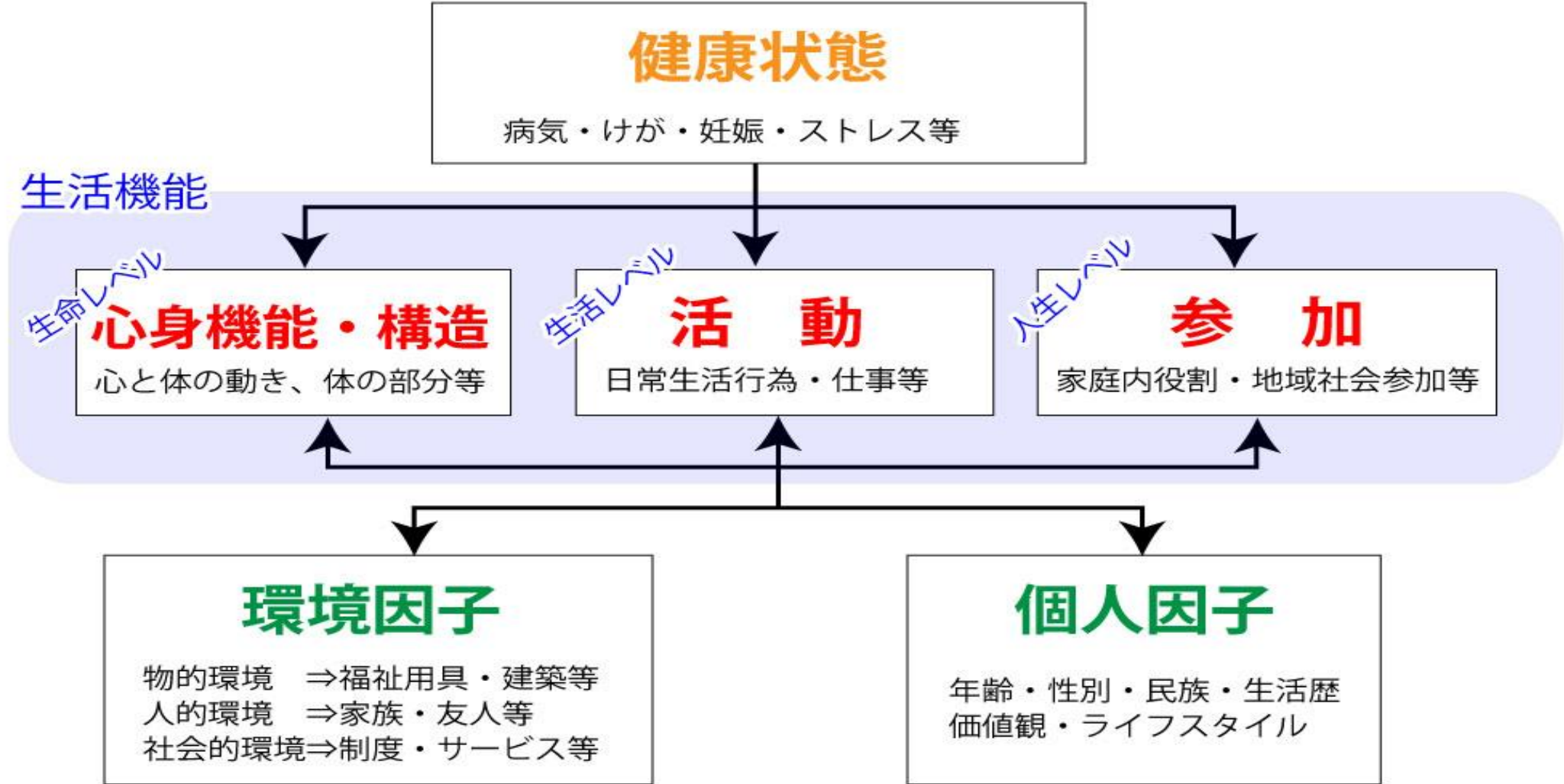
死生観

宗 教

等

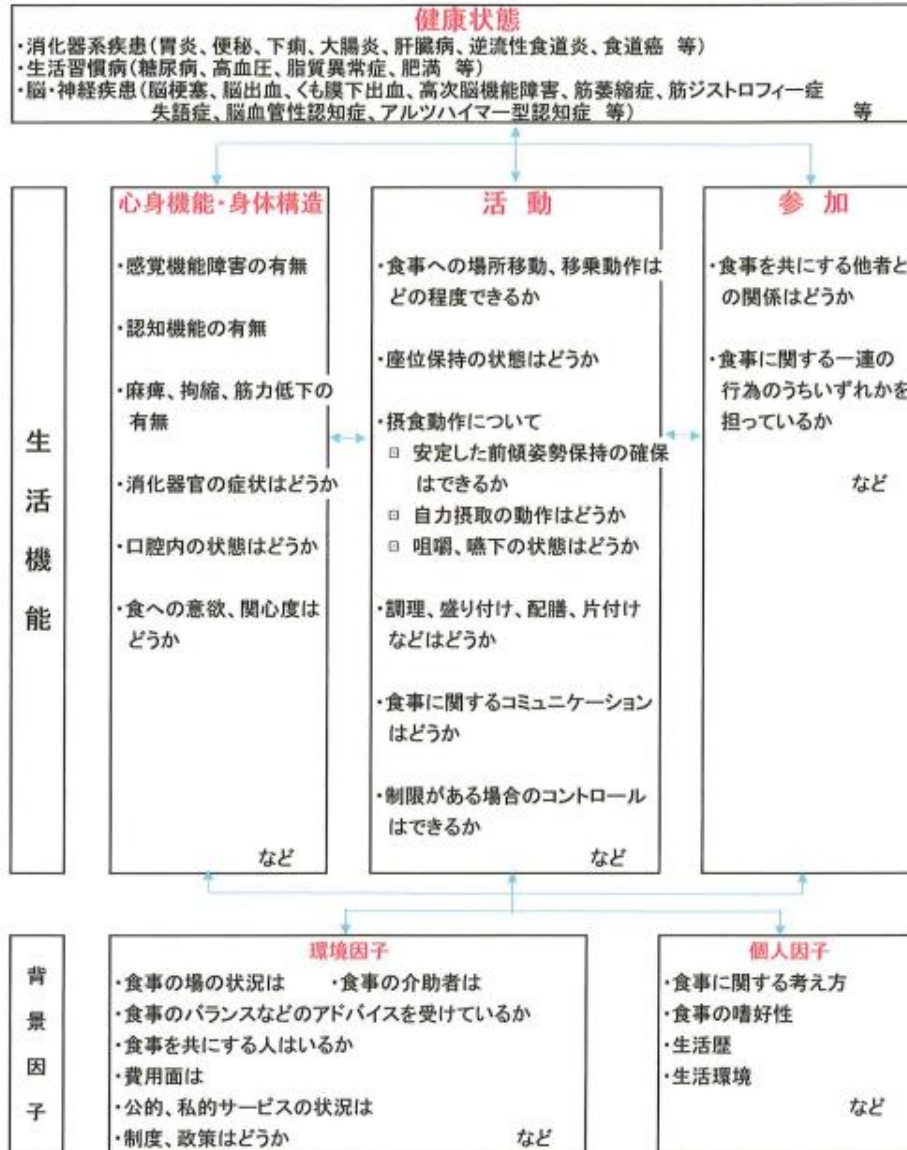
\* 栄養面だけでなく、生活全般からみて活動性の向上に繋がる項目  
に着目する

# 生活機能分類 (ICF)



# ICF アセスメントの視点（食事に特化） 改編版

在宅医療・介護運営委員会



# 自立支援・介護予防に向けて 助言・提案ポイントのまとめ

- 多職種と連携して、栄養面だけでなく生活全般を踏まえた視点で助言・提案する。
- 食事や体調のコントロールを高齢者本人や家族で行うことができるように助言・提案する。
- 行動変容を導くためにも、短期目標を設定し、達成感を得られるよう工夫する。
- 栄養改善の必要性が受け入れられなかった場合、高齢者本人や家族ができそうなポイントを助言・提案する。
- 栄養士が直接介入できない場合にも多職種の介入時に行える助言・提案する。
- 栄養資源が不足する場合、地域課題として助言・提案する。

地域ケア会議に参画している管理栄養士・栄養士作成

# 地域ケア会議における 適切な助言のための 実践・事例集

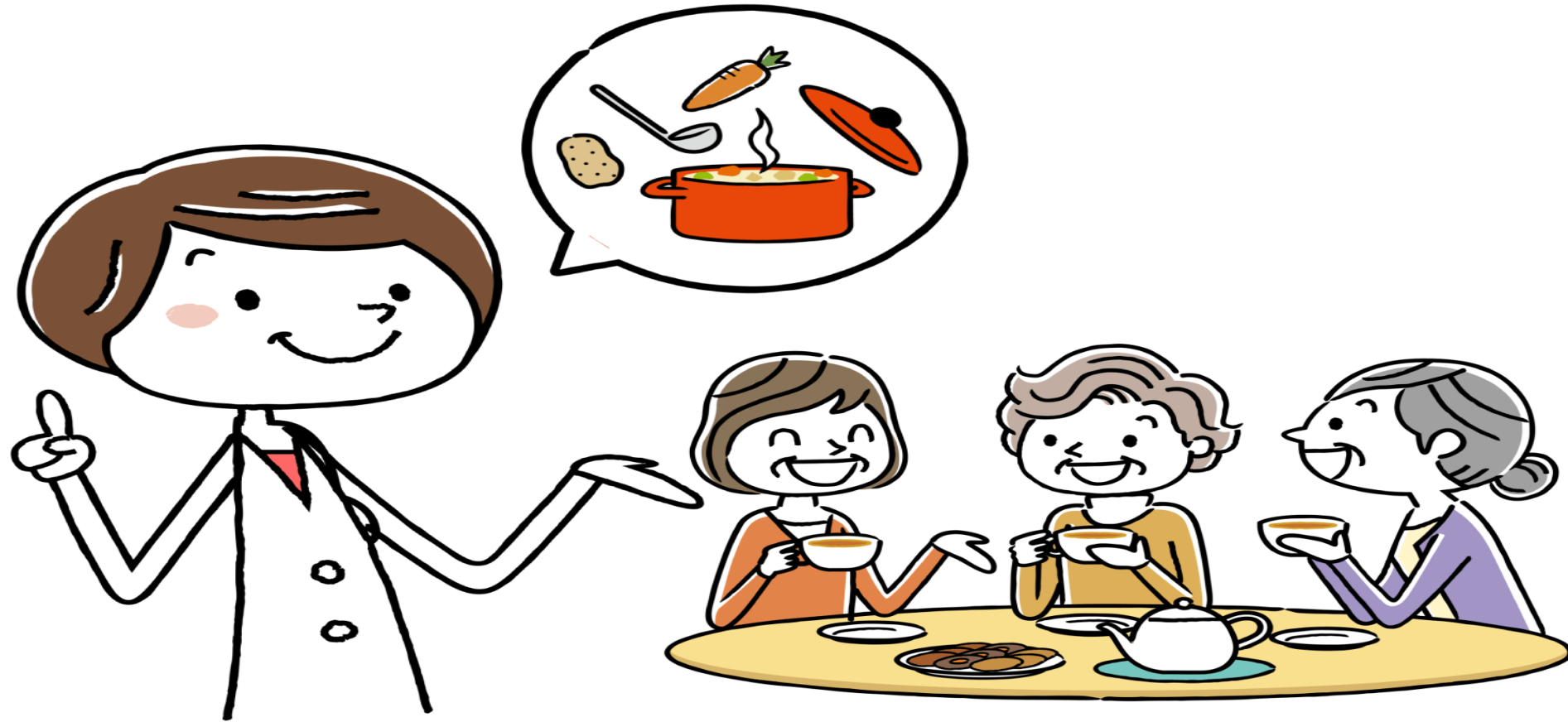


## 地域ケア会議議事録

作成日: 年 月 日( )	
作成者: 所属 氏名	
主催者	
開催日時	年 月 日( ) : ~ :
場所	
参加者名	
内 容	
症例概要	性別 男性・女性 年齢 (歳)
	家族構成 キーパーソン
困りごと	
背景	
要因	
本事例における課題	
他の職種との共通点	
課題解決に向けた視点	(栄養士の助言内容)
	(多(他)職種の助言内容)
その他	



# 地域は栄養士に期待しています



# ロールプレイで学ぶ地域ケア会議 からの訪問栄養食事指導



## 【配 役】

ファシリテーター

豊田

管理栄養士

石川

ケアマネジャー

太田

リハスタッフ

宮部

行政

木原

事例提供者(包括スタッフ)

中川

## 自立支援のための栄養アセスメント

在宅医療・介護運営委員会

\*地域ケア会議に参加する際、栄養士として確認したい項目(症例により異なる)

年齢	歳	BMI					
性別	男・女	一日の必要量	kcal	同居人等	<input type="checkbox"/>	一人暮らし	
身長	cm	一日の水分量	ml		<input type="checkbox"/>	夫婦二人暮らし	
体重	kg	その他( )			<input type="checkbox"/>	家族と同居	
					<input type="checkbox"/>	日中独居	

**【アセスメントの視点】**

- ・体重変動 ( 増加 kg ・ 減少 kg )
- ・体力・体調 ( 良好・不良 : )
- ・食欲・味覚の変化 ( 有・無 : )
  
- ・食事の調達方法 ( 自身で購入 ・ 配食弁当 ・ ヘルパー ・ 家族 )
- ・購入方法 ( )
  
- ・食事時間 ( 朝: 昼: 夜: )
- ・食形態 ( )
- ・一日のメニュー

人生観
死生観
宗教

朝	昼	夜	間食

- ・実際の摂取量 ( エネルギー kcal ・ たんぱく質 g )
- ・栄養補助食品・健康食品の摂取状況 ( )
  
- ・基礎疾患 ( 有・無 : )
- ・内服薬の種類・剤数・タイミング ( )
- ・薬の副作用による食欲低下 ( 有・無 : )
  
- ・歯・口腔の状況 ( 義歯・虫歯・歯磨き : )
- ・誤嚥リスク ( 有・無 )
- ・麻痺に伴う口腔残渣 ( 有・無 )
  
- ・便秘・下痢 ( 有・無 )
- ・消化器の状態 ( 良好・不良 )
- ・皮膚の状態 ( 良好・不良 )
- ・褥瘡の発症 ( 有・無 )
  
- ・食費に使える財源 ( 有・無 )

<p>《プランナーへの助言》</p> <p>*主に食生活と栄養の観点から見て具体的な助言を行う</p>
-----------------------------------------------------